

浄泉寺報

創刊号
2015年
お盆



寺報発行に期待

浄泉寺住職 望月廣三

このたび当寺の若院と若坊守が編集人になり、浄泉寺の寺報を定期的に発行することになりました。寺報は文書伝道であり、寺院としての門信徒教化に欠かせないものです。真宗寺院の興隆と発展に、期待しています。

巻頭言

この度、浄泉寺の新聞（寺報）を再開することとなりました。お

盆、春秋のお彼岸、報恩講と年四回の発行を目標に、若夫婦の仕事として、お寺とご門徒の皆さまとご縁の一つとして編集して参りたいと思っております。

仏教（浄土真宗）は、生活の中にこそあります。葬儀やご法事といった仏事を勤めることはもちろん大切なことですが、そこで出遇った仏教は、その場かぎりのものではなく、私一人の人生に不断に語りかけ続けてくれるものです。

仏様の教え（お経）は、鏡に譬えられます。突然ですが皆さん、自分の眼で直接自分の顔をご覧になったことはありませんか？

毎朝顔を洗う時、鏡を通して自分と向き合ってはじめて自分の顔が見えるように、人間の本当の姿は自分の眼で直接見ることは

絶対にできません。なぜならば、人間はどこまでも自分を良く見せようと自分をどこかで誤魔化して生きる存在だからです。そんな人間のありのまま、誤魔化しの利かない本当の姿を仏様は見抜いていて、私一人に届けるのが仏教というものです。まさに眠気眼の私の顔を映し出してハッと目覚めさせる鏡のようなものが仏教であり、私を私としてありのままに照らし出す大きな働きが仏様（如来）といわれている存在です。

そして、毎朝鏡を見て自分自身の顔を確かめるように、仏様の教えを通してはじめて「嗚呼、私はここにいるなあ」と今を確かめ生きていくしかない毎日が続いていくのです。

（浄泉寺若院・釋亜世）

若坊守のひとりごと

娘は最近、「ありがとう」や「こんにちは」などの挨拶を促すと、おでこが地面に付きそうにならぬ、深々と頭をさげるようになりました。周りが喜ぶので、娘も少し得意げです。

私はというと、子育てという毎日の戦争で、自分の身勝手さや不甲斐なさを痛感し、落ち込んで頭が垂れてばかりです。娘と毎日真剣勝負、人を育てるということは、本当に大変です。

しかし、ありのままの自分をまづ受け容れるのは自分しかいません。思い上がって格好つける自分の薄っぺらさを、娘に剥ぎ取られて降参するしかなく、どんどん自分が裸になっていく気分です。子育てって、奥が深いのです。

（浄泉寺若坊守・釋尼彌名）

お内仏ないぶつ（仏壇）に座る ① ～私がそこに座る～

このコーナーでは、皆様のご家庭にあるお内仏（仏壇）についてのアレコレを連載します。

まずは、下の写真をご覧ください。何か足りないものはありませんか？



位牌？遺影？

ちょっと意地悪な質問だったかもしれません。

写真に足りないもの（正解）は、手を合わせてお参りする人です。お内仏をお飾りすることをお荘厳しやうごんするといいます。そのとき、どうしても私たちはお飾りが正しいかどうか、そのことばかりにとらわれて仏壇を単なる物として見てしまいがちです。

しかし、一番大切なことはご本尊ほんぞんとその前に貴方が座り、手を合わせることです。裏面の「巻頭言」でお話したように、仏様の教えという鏡の前に私がまず座らなければ、鏡に私が映ることもなく、何もはじまりません。

浄土真宗では、お仏壇のことを「お内仏ないぶつ」と呼び習わしてきました。このことは、外から物として仏様を見れば仏様の壇（仏壇）、私がそこに身を据えることではじめて、仏様の教えが鏡のような役割をしてくださって私を映し出し、はじめて私にとってのお内仏になることを表しているように思います。

ちなみに、皆様のお宅のお内仏にお参りさせていただくと、ご位牌や遺影でご本尊が隠れている場面に遭遇します。亡き方を通して仏様の教えあに遇った、そのことはとても大切なことですが、亡き方とここに手を合わせて座る私とを一つの世界でつないでくださるのが、浄土真宗のご本尊（阿弥陀如来・南無阿弥陀仏）です。次回は、ご本尊についてお話しします。

【お寺からのお知らせ】

◎ 秋彼岸のお参り ◎

9月の秋彼岸のお参りは左記の通り予定しています。お留守にされる予定がある場合には、事前にお寺までご一報ください。

二十日(日)阿那賀・丸山・八木・伊加利・

志知・湊・内田様・稲垣様・寺尾様

二十一日(月)由良・天川・千草・上物部・物部・

塩屋・小路谷

二十二日(火)山手・宇山・下内膳・大野・

金屋・池の内・宇原・桑間・

海岸通・本町・栄町・

その他洲本市内

二十三日(水)五色・佐野・安平・志筑

※午後2時からお寺にて彼岸会

◎ 報恩講 ◎

十二月十二日(土)大速夜法要・御伝鈔拝読

【法話】望月廣三住職

十二月十三日(日)満日中法要・お斎とき

【法話】熊谷宗恵師(真宗大谷派元宗務総長

・金沢 仰西寺前任職)

※真宗門徒にとつて最も大切な法要です。お誘い合わせお参りください。詳細は次回第二号(秋彼岸発行)にてお知らせします。

<発行元・問い合わせ>

真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43 電話 0799-22-4798